【１】財政の動向および前年度収支の状況

１　財政の動向

令和５年度の一般会計歳入歳出予算は、当初 30,270,000 千円でありましたが、３月に 169,000 千円、４月に 64,600 千円、６月に 466,800 千円、７月に 11,000 千円、９月に 838,800 千円をそれぞれ増額し、９月末現在の予算規模は、31,820,200 千円となっています。これを前年度の９月末現在の予算規模 31,342,000 千円と比較しますと、1.5％の増加となっています。

特別会計の歳入歳出予算は、国民健康保険特別会計ほか３会計総額で当初 12,294,000 千円でありましたが、９月に 128,100 千円を増額し、９月末現在の予算規模は、12,422,100 千円となっています。これを前年度の９月末現在の予算規模 12,309,095 千円と比較しますと、0.9％の増加となっています。

事業会計の収益的支出と資本的支出の合計は、水道事業会計ほか３会計総額で 13,633,422 千円となっています。９月に 5,500 千円を増額し、９月末現在の予算規模は、13,638,922 千円となっています。これを前年度の９月末現在の収益的支出と資本的支出の合計 13,429,179 千円と比較しますと、1.6％の増加となっています。

２　令和４年度普通会計歳入歳出決算の概況

普通会計とは、地方公共団体間の財政比較等のため地方財政統計上統一的に用いる会計区分であり、一般会計と企業会計・事業会計等を含まない特別会計を合算した会計区分です。

令和４年度普通会計決算額は、歳入が 32,217,131 千円（前年度 32,150,400 千円）、歳出が 31,443,638 千円（前年度 31,256,894 千円）、前年度と比較すると、歳入は 66,731 千円（0.2％）、歳出は 186,744 千円（0.6％）の増となりました。

歳入歳出差引額（形式収支）は、773,493 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、687,905 千円の黒字となりました。

歳入においては、自主財源のうち基幹的な財源である市税は、個人市民税が 1.8％、法人市民税が 5.9％増加となりました。固定資産税は、土地で 7.2%減少しましたが、償却資産で 6.3％の増となりました。市税全体では 2.2％の増となりました。

また、繰入金は財政調整基金等からの繰入金が 1,080,444 千円（117.7％）の増となり、自主財源全体で 1,192,356 千円（13.2％）の増となりました。

依存財源では、市債が公共施設の長寿命化等に係る合併特例事業債の発

行などにより 649,266 千円（33.5%）の増となりましたが、地方特例交付金が 222,672 千円（85.6%）の減、地方交付税が 137,380 千円（1.2%）の減となりました。また、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策による子育て世帯への臨時特別給付金の給付終了や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減などにより国庫支出金が 1,105,757 千円（21.0%）の減となり、依存財源全体で 1,125,625 千円（4.9%）の減となりました。

歳出においては、目的別歳出決算で、総務費では、財政調整基金等の基金積立金の増などにより 2.6%の増、民生費では、子育て世帯への臨時特別給付金の給付終了などにより 0.3%の減、衛生費では、水道事業の災害・安全対策事業に係る出資や災害廃棄物処理費の増などにより 1.5%の増、農林水産業費では、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業や上安曇地区経営体育成基盤整備事業の減などにより 4.4%の減、土木費では、道路除雪業務委託料の減などにより10.0%の減、消防費では、消防施設整備事業（消防ポンプ自動車購入等）の減などにより 4.7%の減、教育費では、今津中学校大規模改造事業や公民館・図書館等の教育施設長寿命化事業の増などにより 18.0%の増となりました。

次に、性質別歳出決算においては、義務的経費において、扶助費が子育て世帯への臨時特別給付金の給付終了などにより 10.3%の減となり人件費、公債費と合わせた義務的経費全体では 3.0%の減となりました。

一般行政経費においては、物件費が災害廃棄物処理費や公共施設の電気料金の増などにより 1.8%の増、補助費等が農産物等輸出拡大施設整備事業費補助金などにより 7.1%の増となり、一般行政経費全体では 5.7%の増となりました。

3　令和４年度収支の状況

実質収支	687,905 千円（前年度	761,741 千円）
単年度収支	△73,836 千円（前年度	△93,347 千円）
実質単年度収支	△424,261 千円（前年度	△91,108 千円）

（１）実質収支

令和４年度における歳入歳出差引額（形式収支）は、773,493 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、687,905 千円の黒字となりました。

（実質収支 687,905 千円＝歳入 32,217,131 千円－歳出 31,443,638 千円－翌年度繰越財源 85,588 千円）

（２）単年度収支

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、73,836 千円の赤字となりました。

（単年度収支△73,836 千円＝令和４年度実質収支 687,905 千円－令和３年度実質収支 761,741 千円）

（３）実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還金を加え、財政調整基金の取崩額を差し引いた実質単年度収支は、424,261 千円の赤字となりました。

（実質単年度収支△424,261 千円＝単年度収支△73,836 千円＋財政調整基金積立金 686,287 千円+繰上償還金 0 千円-財政調整基金取崩額 1,036,712 千円）